

令和4年度 第3回港区区政会議 こども青少年部会 議事録

1 日 時 令和5年3月2日（木）午後7時～

2 場 所 港区役所5階会議室

3 出席者（委 員）対面：井本委員、ヴィダル委員、染矢委員、平井委員

WEB：高満委員、中西委員

（関 係 者）対面：港区青少年指導員連絡協議会 奥村氏

港区PTA協議会 藤田氏

市岡東中学校 中田校長、波除小学校 福永校長

WEB：港区子ども会育成連合会 入江氏

（港区役所）対面：山口区長、若林副区長、早川教育担当課長、

桐谷窓口サービス課長、西堂総合政策担当課長、

村上教育担当課長代理

4 議 題 （1）港区まちづくりビジョンの改定について

（2）令和5年度運営方針（案）について

（3）令和5年度予算（案）について

（4）その他

○村上協働まちづくり推進課長代理 皆様こんばんは。

定刻となりましたので、ただいまより港区区政会議こども青少年部会を開催させていただきます。

私は、協働まちづくり推進課課長代理の村上です。どうぞよろしくお願いいたします。

区政会議につきましては、条例の規定により、委員の2分の1以上の出席により成立することとなっており、オンラインでの参加も含むこととなっております。

現在の出席状況を報告させていただきます。委員の定数6名のところ、全員の出席をいただいております。委員の2分の1以上の出席がございますので、有効に成立していることをご報告いたします。

また、本会議は公開としており、後日、会議録を公表することとなっておりますので、会議の内容を録音させていただくことと、ご発言の際はマイクの使用をよろしくお願いいたします。

会議中、少しでも体調に異変がございましたら、遠慮なくおっしゃってください。よろしくお願いいたします。

なお、区政会議の当部会は、大阪市の分権型教育行政の仕組みとして、保護者や地域の方から広くご意見をいただきながら教育行政を進めるための港区教育会議を兼ねております。

続きまして、本日の資料の確認をさせていただきます。

当日配付資料の資料一覧表のとおりで、1月27日付、事前送付資料として、Aが港区まちづくりビジョン関係資料、Bが令和5年度港区運営方針関係資料、Cが特に意見を求めたい内容及び教育委員会による学校選択制にかかる検証（中間まとめ）、次に、2月20日付、事前送付資料として、先ほどの事前意見に対する区役所の対応・考え方、Dが令和5年度港区関連予算（案）関係資料となっております、当日配付資料として、次第、資料一覧表、部会委員名簿、配席図となっております。

以上の資料を本日使用して議事を進めたいと考えております。事前配付資料はお持ちいただいておりますでしょうか。ない方がいらっしゃいましたら、挙手でお知らせ願います。

本日は、議題1として港区まちづくりビジョンの改定について、議題2として令和5年度運営方針（案）について、議題3として令和5年度予算（案）について、議題4、その他として委員からの事前意見内容と区役所の対応・考え方及び教育委員会による学校選択制にかかる検証（中間まとめ）となっております。全て説明は短めに、議論や質疑を長めにとってまいりたいと考えております。また、本日の会議時間は1時間とし、午後8時に終了を予定

しております。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

それでは、議題に入る前に、山口港区長よりご挨拶申し上げます。

○山口区長 皆さん、こんばんは。

大変外出しにくく、また、仕事の終わりのお忙しい時間にお集まりいただきありがとうございます。

今年度、第3回目の区政会議こども青少年部会ということで、本日は港区の区政運営の基本計画であるまちづくりビジョンの改定や令和5年度の運営方針（案）、予算（案）についてご意見をいただきたいと思いますと考えております。

教育に関しましては、後ほど担当から説明があると思いますが、港区において増加している不登校児童生徒への対応、キャリア教育など多様な学びの提供、また全学年単学級となっている小規模校に関する適正化の検討など様々な課題がございます。

私も港区に來ましてから、各学校全て回って、校長先生たちと面談もし、またいろんな地域の行事が復活してきていますので、地域の方が子どもたちに餅つきや、いろんな行事を行っている場面で交流の機会なども見る機会がありました。また、小学生が自分たちの住む地域の将来を考える『まちの幸福論』という授業があるのですが、それを見せてもらい、やはり港区を愛している地域や、また子どもたち、そして一生懸命頑張っている学校の姿を見てきた1年だったと思っています。ただ、私からはやはり見えない、行政からは見えないいろんな姿、声があると思いますので、この機会にこの区政会議の場を使って届けていただければうれしいと思っています。

本日は忌憚のないご意見、よろしくお願いいたします。

○村上協働まちづくり推進課長代理 それでは、染矢議長、議事進行をよろしくお願いいたします。

○染矢議長 皆様、こんばんは。議長として進行役を務めさせていただきます染矢です。どうぞよろしくお願いいたします。

委員の皆様方には積極的にご意見をいただくとともに、円滑な会議運営にご協力よろしくお願いいたします。

それでは、議題に入ります。

議題1、港区まちづくりビジョンの改定について、議題2、令和5年度運営方針（案）について、議題3、令和5年度予算（案）についてを、まとめて区役所からご説明いたします。

○早川教育担当課長 教育担当課長の早川です。よろしくお願いいたします。

資料の説明をさせていただきますが、時間の都合もありますので、当部会に関する部分の要点のみの説明とさせていただきます。よろしくお願いします。

座って説明させていただきます。

まず初めに、議題1、港区まちづくりビジョンの改定案についてですが、資料は概要版の1枚物、A-1の資料と、あと本編の冊子になっています。

このビジョンは、人口減少を食い止め、人口減少の将来予測を覆すために、港区が目指すまちづくりの方向性を示すもので、今回の改定は、現行の令和4年度までの計画を令和5年4月からの4年間、令和8年度までの計画として一部改定いたします。港区のまちづくりの方向性に大きな変更はございませんが、山口区長の将来ビジョンを一部反映したものとなっております。

当部会に関連する主な改定部分についてですが、この概要版の右側に、港区の将来像として5つの柱があります。その4番目「まちぐるみで子育て」と「多様な学び」を応援するまちづくりとして、将来への夢や希望を育成する多様な学びを掲げております。

本編の31ページをご覧ください。

現状と課題というところの一番下の項目、分権型教育行政を推進し、保護者・地域住民、校長等の多様な意見・ニーズを酌み取り、学校園だけでは解決できない横断的な課題への対応について学校を支援することが必要です。また、学校等で子どもの学びを支援するボランティアの確保も必要です。

次に、32ページ、大阪市の不登校の児童生徒の在籍比率は全国に比べて高く、学校に登校するだけでなく、児童生徒に応じた多様な学びの形が必要となっています。

次に、区内の11小学校のうち4校は、今後しばらくは全学年単学級の状況が続く見込みであり、適正配置の対象となっているほか、中学校においても同様に単学級の状況が続く見込みの学校があります。児童生徒の教育環境の改善のため、学校配置の適正化の検討が必要です。また、環境が改善されるまでの間においても格差を生じさせないため、こうした学校への支援が必要となります。

次に、主な施策としまして、32ページ以降に記載しております。

「多様な学び」の応援については34ページ、子どもの教育環境の向上としまして、不登校の児童生徒への対応のための学校支援のほか、登校以外の様々な学びの形や場の提供に取り組めます。

学校教育、家庭教育に関するボランティア活動を支援するとともに、ボランティア人材の確保などに取り組めます。

子どもの学力・体力の向上と「将来への夢や希望」の育成として、家庭学習を促進するため、学校・PTA・地域等と連携するとともに、習い事・塾代助成事業などを活用して、学校教育以外の学習の場への児童生徒の参加を促進します。

また、子どもたちの豊かな社会性と将来への夢や希望を育むため、商店街や企業等と連携して、子どもたちが体験学習や職業体験ができる機会の充実などに取り組めます。

次に、分権型教育行政の推進としまして、小中学校のよりよい教育環境の整備に向け、保護者や地域と対話をしながら検討していくなどに取り組んでいきます。

ビジョンについての説明は以上です。

次に、議題2の令和5年度運営方針（案）、資料はB-1から3になりますが、先ほどのビジョンを実現するための具体的な取組等となっています。今回から様式も変更し、分かりやすくなっていますが、事前に資料も送付させていただいており、内容も細かくなりますので、本日は、説明のほうは省略させていただきます。

次に、議題3のほうに移らせてもらいます。

令和5年度予算（案）についてですが、D-1の資料をご覧ください。これは2月20日に送らせてもらった資料です。

この1ページ目の令和5年度予算が約33億8,600万円となっており、令和4年度より約3億2,000万円増となっております。これについては、2ページ目に、重点的に取り組む予算として区画整理記念・交流会館整備事業で、令和4年度より約3億円の工事費の増額となっております。

予算とは直接関係ありませんが、新しい交流会館の中に新たな図書館もできる予定となっているのですが、昨年12月に港区内の市岡高校、港高校の生徒の方とワークショップを行い、若い世代の方が魅力に思い、多くの若者が来館するための工夫等について、多くの意見をいただいております。その実現に向けて、図書館で検討を行うこととしています。

その資料の下の不登校生徒支援事業としまして、約150万円の増額、拡充としております。これまでのボランティアサポーターによる登校支援や学習支援に加え、校内に居場所を開設し、不登校からの回復に向けて対応できる支援に取り組んでいきたいと考えています。

教育関係の予算の主な変更点については以上です。

簡単ですが、議題1から3までの説明とさせていただきます。

○染矢議長 ありがとうございます。

それでは、これらの案件について、ご意見、ご質問を承りたいと思います。どなたかございますでしょうか。

平井委員、お願いいたします。

○平井委員 皆様、こんばんは。港区PTA協議会の平井でございます。

先ほど議題のほうにありました港区まちづくりビジョンの中にありました小規模校の再編に関して、この前、小規模校の対象になっている小学校の保護者の皆様と、あとは港区の方々に来ていただきまして、意見交換会というのを設けさせていただきましたので、そのときのことを少しご報告させていただきたいと思います。

まず、対象になっていた地域としましては、池島小学校と八幡屋小学校、港晴小学校、この3つの地域が対象の小学校になっておりました。計2日で行わせていただいたんですが、1日目は池島小学校、2日目には港晴小学校と八幡屋小学校の保護者の皆さんが来ていただきまして、各校、一応5名程度ということで来ていただいた中で、意見の交換を行わせていただきました。

その中で、保護者の方の気持ちとしては、大半の方が、統廃合に関してはぜひ進めていただきたいと、できることなら早く進めていただきたいという意見が大変多かったのではないかというふうに思いました。ただ、その中でも不安に思っておられる方もやはりいらっしゃいまして、今まで小規模校で手厚く子どもたちを見ていただいたのが、いきなり大人数になったときに子どもたちがその場にうまく適応できるかどうか心配であるとか、あとは池島小学校からすると、自分たちの校区に寮があるので、そこをほかの地域がどのように感じておられるのかというような意見も出た中で、あと地域とのコミュニケーションといいますか、1つの学校になったときに、じゃ、今までやっていた地域行事に対してはPTAとしてどのような形になっていくのかというようなところを不安に感じておられる方もいらっしゃいました。

ただ、子どもたちのことを考えると、やはり単学級よりは複数の学級があって、小さい頃からいろんな方や価値観を持った方と触れ合えることが、より自分の子どもたちの成長にプラスになるんじゃないかということでお話をいただいたというような内容になっております。

以上になります。補足ありましたらお願いいたします。

○山口区長 若いお母さん、特に低学年にお子さんをお持ちや、これから入学するというお母様方もいらっしゃって、意見交換をさせていただきました。

区役所として、今の時点で何かこれという案があるわけではないのですが、この課題を置いておけないというのが1つ。あと以前にもお話ししたかと思うのですが、前の区長が残していったというか、言っていた案がありましたので、その実現可能性みたいなところで、私たちの中で調査して、ちょっとできないこともあるので、そういった情報共有をさせていただいた上での意見交換という形になりました。

そうは言いながら、まだPTAの一部の方とのやり取りですので、今後またこういった話し合いの機会をつくっていかないといけないというのと、やはり何か案を出してほしい、いつにどうするというのをある程度言ってほしいというような声もありましたので、素案という形で、来年度どこかで早めに出すだけ出し、また、それを基に議論したほうが、話が早いのかというようには思っているところです。

また、地域はまた全然別の声だったりもしますので、いろいろなご意見あると思うので、そこはもう忌憚のないご意見をいただけたらと思っています。よろしくお願いします。

○染矢議長 ほかにご意見ございませんでしょうか。

それでは、次に、議題4、その他の委員からの事前意見内容と区役所の対応・考え方及び教育委員会による学校選択制にかかる検証（中間まとめ）について、区役所よりご説明をお願いいたします。

○早川教育担当課長 議題4、その他について説明させていただきます。

まず、当部会に関する委員からの事前意見内容と区役所の対応・考え方ですが、前に映っている1枚物、これも2月20日にお送りさせていただいております。

区役所のほうから委員の方々にご意見を求めました内容は、子育て世代に選ばれるための子どもの学力・体力の向上策や「将来の夢や希望」の育成策について具体的な意見と、併せて子どもの体験学習や職業体験に協力していただける企業や団体をご紹介くださいと依頼したところ、何件かのご意見をいただきました。

1つ目は、幼稚園、小中高校での特徴的な取組、学力、クラブ活動、保健活動、地域活動などをよりアピールして、魅力的な学校を選んでもらえるようにしてほしい。また、港区の魅力や、これからも港区で住み続けるようにするにはどうしたらいいかを中学生等に聞き取ってはどうか。また、複数の方から、体験学習や職業体験に協力していただける団体等の提案もいただきました。

これに対して、区役所としてもいただいたご意見を参考とさせていただき、体験学習等にご協力いただける団体等について、現在も市岡東中学校をはじめ一部の学校では実施してい

ただいていますが、改めて学校のほうにもその辺の情報を提供させていただきたいと思います。

また、学校教員へのサポート体制の充実についてもご意見をいただきました。これについては、現在も教育委員会や区役所においてもサポーターの配置等を行っておりますが、サポーターの人材確保が課題となっておりますので、区役所といたしましても、PTAの関係の方々などいろいろな会議の場や方法で働きかけを行ってまいりたいと考えておりますので、よろしくをお願いします。

あと一番下の自習室の場の設置についてもご意見をいただいております。これについては、令和5年度から長期休暇期間に、区民センター等でサポーターも配置して自習室を設置していくこととしております。また、令和6年度に開設予定の交流会館内の新図書館においても、自習ができるようなスペースを設けることができたらと考えているところです。

事前意見についての区の対応等についての説明は以上です。

次に、教育委員会による学校選択制にかかる検証（中間まとめ）についても、ご説明を簡単にさせていただきます。

資料は1月27日に送付させていただいております。前に映っている分ですけれども、C-3という資料になります。

この学校選択制の検証につきましては、前回の部会でも、口頭のみでご説明をさせていただきましたので、港区の特徴についてのみご説明いたします。

最後のページ、表3というところですけど、校区以外の学校を選択した理由ですが、港区の中学校で、大阪市全体と比べて選択した理由が多いのは「友達が同じ学校に行く」、また「やりたい部活がある」、また小中学校ともに「児童数・学級数が多い学校だから」ということを理由に選択制を選んでいるのが多くなっています。

1ページ戻っていただきまして、5ページの表2、選択制を利用し、校区外の学校へ行っている割合は、大阪市と比べ、港区は中学校で多くなっているという結果になっています。その上の表1のうわさにより学校選択がされていると思うかという質問に対して、港区の中学校では、「思う」という回答が大阪市全体よりも多くなっているという結果になっています。その理由としては、過去に学校が荒れていたなど事実かどうか検証できないものも含め、過去の事象や風評等の元になっているものが多いほか、現在の学力や生徒数の少なさといった実際に公表されている事実もその理由として挙げられています。

簡単ですけど、説明については以上です。よろしくをお願いします。



○染矢議長 では、この件につきまして、何かご意見、ご質問などはありませんでしょうか。

ヴィダル副議長、よろしければご意見いただきたいのですが。

○ヴィダル副議長 こんにちは。議長からご指名いただきましたので、一番最後の表3なんですけど、港区の回答内容が、ほかの部分、大阪市内の回答と比べてかなり伸びているということで、黄色い印をつけていただいているんですけど、表2にもあります風評等もちろんありますし、人数が少ないことで、どうしても選択に影響が出るというのも、もちろん港区民としては分かっているんですけど、このように港区で特出して数字が増える要因というのは、何かこれではないかという一因として、区で今、考えておられることがもしあるならば、教えていただければと思います。

○早川教育担当課長 1点、西側、築港地域といえ、少し島みたいになっていて、そこを渡るのに運河を渡らないといけない。その交通というか、トラック等もすごく走っているんです。そこを通過して通学するのが危ないというので、選択制で本来行く学校と違うところに行っているとかいうのも理由としてはあると思います。

あと、先ほどのこの結果だけで言えるかどうかは分かりませんが、やはり学力とかそういうものを考えて選択している方もいるのではないかと思います。

○染矢議長 ありがとうございます。

すみません、私からも1つお話しさせていただきたいのですが、港区で、例えばそういう通学路が危ないからとかいう理由で、本来行く学校とは違う学校に選択制で行く子もいると思うんですけど、何か前から私がすごく気になっていたのが、学力の向上ももちろんあってと思うんですけど、何かそのほかの港区の学校に行くというより、私立を受験するようなお子様も増えているのではないかなというのが保護者としてちょっと気になる点でありました。そちらはどのような情報が入ってきているのかなと思うのですが。

例えば、地域でお話しさせてもらっていたときに、お母さん同士のお友達間から、何か今年度は何人中学校受験したとかいう話を耳にすることもあるので、何かそういったことは、先ほど区PTAの会長様もおっしゃっていたんですけど、そういうお話は出たりしているのかなというのがちょっと疑問なんです。

○早川教育担当課長 港区の状況はあまりつかめていないのですが、私の家が城東区で、今は結構、公立よりも私立へ行かせたいと、小学生から塾に行かせている子も多いと思います。私たちが子どもだった頃とは大分違って、小学生の低学年ぐらいから、受験させるから塾に行かせるという、そういう家庭も増えているのかなとは思いますが。港区の状況というのは、

つかめていないのですが。

○染矢議長 ありがとうございます。また、何か分かりましたら、教えていただけたらと思います。

それでは、これまでの議題、全体を通しまして、ほかにご意見などありませんか。

本日はせっかくの機会ですので、まだご発言されていない委員の方、本日の議題に関わらなくても結構なので、何かご意見やご質問を一言ずつお願いできますでしょうか。

○ヴィダル副議長 すみません、何度も。

子ども、青少年と分野が違うのですけれど、もともと私は大正区に住んでいたことがあります。今、友人の介護職をやっている人間の関係で、人づてで偶然聞いた話があったんですけど、大正区もかなり古い時代からの家が残っている地区があって、夜になるとかなり暗く、その辺りも小学校があったりし、そっちは通らないようにというところもあるんですけど、その空き家のいわゆる長屋が、双子長屋というのがあった地域で、双子長屋なので、片方から先にリノベーションがされて、いわゆるアトスペース、あとは少しこだわりのご飯屋さんであったり、あまり大人数を呼ぶような御飯屋さんではない感じの。あとアトリエであったり、物販で、もともとの支援団体が、いわゆる障害者の方々をサポートする団体さんということで、やはり社会的に障がいを持っておられると判断される方たちに仕事を提供する場ということで、今回、双子長屋のもう片方も着工したということで、非常に地域もかなり明るくなりますし、人通りがやはり増えるということで、もちろん雇用も増えますし、子どもさんにもいい影響がということで、非常にいい動きだなというのを、先日、つい最近、拝見したんです。港区にそういう団体さんであったりいわゆる招集をかけて、そういうまちづくり案というのに、活発に生かさせていただくというお話とかは、まだ何も出ていない感じでしょうか。

○山口区長 そうですね。私もその事例は知っています。最近、生野で長屋リノベーションがかなり活発だったので、いろんな団体さんがいて、今、築港での動きとして、K L A S I C O L L E G E さんというところがあるんですけど、区も協定を結ばせていただいて、そこは物件を買ったり、借りたりして、リノベーションして、まちの活性化をしようとやっていますし、また、今後、エリアリノベーションというんですけど、大阪メトロがそれぞれの駅1個ずつに、活性化のために入っていこうみたいな動きもあります。

昨日、私も東京のコンサルの方で、そういうエリアリノベーションの専門の方と一緒に八幡屋地域、あと築港エリアをまち歩きしたんですけど、やはり商店街とかがすごくしんどい

のですよ。やはりその物件を持っている方が好きに使っていいよと言ってくれないと使えないんですけど、上に住まれていた人がいろんな課題があって、ちょうどそのメトロさんの動きと、あとは万博に向けてまちを活性化するということで、やはり後押しも、区もどんどんやっていかないといけないと、昨日も改めて思ったところですので、やりたいという人がやはり来ないと駄目で、生野の事例でいくと、若い女性が、それこそ物件を買って、みんなで寄りあって壁を塗ったりしてサポートして、オープンしたときには、もう既にお客様がいる状態にしているという、そのつながりができている状態にしているというのが理想的なんですね。

だから、そういう場のつくり方みたいなのは私も知っているところがあるので、どんどんやっていけたらというのと、あとは障がいを持っている方の居場所とか、活躍の場というのをソーシャルファームというんですけど、中間就労みたいな場が、それは高齢の方にもあってもいいと思いますし、子育て中のお母さんでちょっとだけお仕事したいんだと、そういう人たちが何か集まって来れるような機会とか、場というのはあったらいいなというふうに思っています。

私もちょっと大正の件も、また見に行ってみたいと思います。ありがとうございます。

○染矢議長 ありがとうございます。

すみません、少しお時間がございますので、校長先生のほうから、今年度を振り返って、学校運営での現状、課題などについて何かお聞かせいただけますでしょうか。

市岡東中学校、中田校長先生、お願いいたします。

○中田オブザーバー 失礼します。この4月に港区の学校寄せていただいて、1年ほぼ終わりにかけていますが、課題というか、自分の経験した学校と比べるしかないんですけど、やはりここにも上がっているような不登校の対応が大変難しいというのが、この1年で強く感じています。地域によってそれぞれいろいろな特色があるんですけど、学校で何とかしていこうという風潮が強いのかなというのを感じています。学校に行かなければいけないという前提で動いているので、それ以外に行く場所があればいいのにというのは、ちょっと感じます。放課後だけでも行けるところがあったり、地域によっては、ほかの例えば小学生、幼稚園の子とかを扱うような施設が、放課後は中学生に開放して、そうやって学ぶ場を提供することで何人か来たといったら、また友達関係もできてくるので、社会性がついていくなとかそういった活動もあるので、そういうのはもう少しあれば、学校としてもありがたいなと思います。学校に行きたくないという本人の主張なのに、大人は、いやいや何とかして学校へ行か

そうというふうになると、子どもらを追い詰めていくことにならないのかなど、少しそこが心配です。

ただ、国を挙げて不登校対策という、どうしてもその数値を下げなければいけないというプレッシャーがあるので、なかなかそういうゆとりというか、子どもらがちょっと休憩できるような機関というのがあればと思っているところです。

あと、学校に来ている子に関しては、何事もとにかく頑張るというのが、逆にここに寄せていただいて驚いているぐらい、子どもらが子どもとして自分の今やらないいけないことを頑張れている状況にはあるので、本当にそちらはすごく港区としてはうまくいっているのかと思いますので、あとはその不登校の件、少しちょっと考え方を変えていく必要もあるのかというふうには感じています。

以上です。

○染矢議長　ありがとうございます。

続きまして、波除小学校、福永校長先生、お願いいたします。

○福永オブザーバー　失礼いたします。本日、ご報告いただいた中身を聞かせていただいての私なりの思ったことなんですけれども、まず選択制の話が出ておりましたけど、小学校と中学校でその選択の基準というのはまた変わってくるとは思うんです。今まで私が経験した感想で言いますと、特に小学校で、選択制でどの学区にしようか迷われる保護者の方の大体のお考えというのは、その学校が子どもは落ち着いているかどうかということ、それから、いじめはないですかということとは必ず聞かれます。それらを含めて考えると、小学校の段階で選択制を考えておられる保護者の方というのは、やはり児童が安心して通える学校かどうかというのが、小学校では一番大きな基準になっているんだろうなというふうに思います。もちろん学力とかそういったことも出てくるんでしょうけれども、まずは子どもが安心して通える学校なのかどうかということを一番求めておられるというのは、印象としてあります。

区政会議のほうで、特にご意見求めたい内容ということで、このA3の1枚物の文書もちょっと読ませていただいたんですが、体験学習、職業講話の話も出ておりましたけれども、こういった取組を学校の中ではやはり積極的に取り入れていかないと、特にこのコロナ禍の間、思いましたね。今年度、ようやくこういった活動が徐々に復活することができたということで、外部の方から講師で来ていただく取組というものに対して、子どもたちは何と瞳をきらきらとさせて取り組むことかと。担任の先生が授業していたら、そこまで瞳を輝かせるかなと思うぐらい、もうきらきらの瞳でやっぱり活動しているんですね。ああ、やはりこう

いった取組というのは、もう学校現場で積極的に取り入れていかないとというのはすごく感じました。

やはりその本物に触れるということは、すごく大事な事かなというふうに思います。本校も久しぶりに外部講師の方にいろいろ来ていただいて、科学実験ショーというのを1回やったんですけど、もうそのときの子どもの歓喜する表情ですね。わあ、すごいな、こんなことができるんやというのを、やっぱり学校の中でも多く機会としてはつくっていったあげないといけないのかなというのは、今回見ていて、特に感じました。コロナ禍の間でなかなかそういった活動ができなかった、平たんな毎日を学校生活の中で送っていたので、やはり子どもたちが毎日来てよかったな、面白かったなというような機会をできる限りつくっていったあげないといけないというのは、すごく感じたというところでございます。

それから、学校へのサポート体制ということで、人材確保の話も出ておりましたけれども、これは、私は従前から言っておりますけど、もう本当に喫緊の課題というふうに思っております。サポーターの方のみならず、教員の確保ということは、すごく大きなテーマであると思います。これは大阪だけの問題ではなくて、全国的に教員の不足が叫ばれています。新聞でも沖縄の状況も出ておりましたけれども、大変な状況になっております。

なぜそこまで学校現場が敬遠されるのかということ、やはり突き詰めていかないとけない。いろんな要素が複雑に絡み合っていると思います。それを一つずつでもひもといていかなければ、なかなか教員の確保、また学校をサポートしようというような機運も生まれてこないのかなというふうには思っております。

先ほど子どもが瞳輝くような形で取組をしないとけないというふうに申し上げましたが、先生自身も、やはり輝く瞳で子どもの前に立たないとけないだろうな。もう今、本当に先生方、疲れている方が多いです。そうじゃなくて、やはり先生自身が輝く瞳で子どもの前に立ってこそ、どれだけ違うかなと感じておるところです。

あと学力に関してですけど、そのフォロー体制をつくるということは、やはり考えていかないとけないかと思います。先ほど自習室の設置ということで、次年度ですか、夏休みに設定していくというお話ありましたが、すごくすてきなお話だなと思っております。

港区のほうは図書館が新たにできるということで、そこにも少し出ておりましたけれども、自習室の場をつくるというのは、すごくいいことだというふうに思います。学校でも自分の学習が終わった子は、よく教室で学級文庫の本を読むであるとか、図書室で本を借りてくるであるとか、大体セットでやっているんですね。自分のやっている学習のスピードは、もち

ろんほかの子と比べて違う場面が出てきますので、そういった隙間の時間を何で埋めていくかということを考えた場合に、横に図書館、本がたくさんあるという環境はすごく魅力的だというふうには思います。

それと、あと放課後と休日の学ぶ場の保障、どういうふうにしていくかということを考えていかなければいけないと思います。波除小学校のほうでも放課後学習、去年まで学校の先生方は本当、会議が放課後多いので、そればかりじゃいけないだろうということで、子どものために時間をつくろうということで、大体月2回程度、放課後学習というのを取り入れているんですけども、子どもが残って1時間弱、学年の先生方と一緒に勉強するという機会をつくっているんですけど、そこへ参加していますと、やはり子どもたちは生き生きとした表情で勉強しているんですね。先生方にやはり教えてもらえるということに喜びを感じているという姿を見ていると、やはりそういった体制はつくっていかないといけないかなと。それはもう学校単体ではなくて、やはりこれも区で何かできないかなというふうにも考えておるんです。

例えばなんですけど、今、各小学校にいきいき活動というのがありますよね。そのいきいき活動の様子を見ておりますと、授業が終わったら、まず宿題をその場でするんですね。それはもう本当に5分で終わる子もおれば、10分、15分かかる子もいてるんですけど、勉強というのはその時間だけなんですね。いきいき活動というのは、帰る時間はそれぞれ違うんですけど、最長で本校の場合ですと6時までいてるんですが、その間いろんな遊びで時間を過ごすんですね。ちょっともったいないなという気はしますね。やはりその学力に課題のある子、家に帰ってなかなかその学習する時間が取れていないというのが、いろんな調査で出ているんですね。それなら、どこかでその時間を確保しないといけないと。いきいき活動にいてる時間は結構使えるのではないかとすごく感じているんですね。ただ、そのいきいきの先生も、どこまでフォローできるかというのはもちろんありますし、そこに人をあてがうというやり方もあるのではないかとというふうに思っております。

あと、土曜日や日曜日、放課後に学習の場の機会をつくるというのは、なかなか子どもたちからすると負担感が大きいんですね。1日6時間勉強して、さあ、学校終わったというところからまた勉強というのは、ちょっとやはりハードルが高い子もいます。実際に放課後学習でもそうなんですけど、残ってほしい子が残らないんですね。さっと先に帰ってしまうんですね。知らないうちにいてないということになってしまうので、やはりそういったことを考えると、土曜日であるとか、日曜日であるとか、そういう機会をつくらないといけないの

かなというふうに思います。学校施設を使うということであれば、土曜日はいきいき活動をしておりますので、それとセットで何かできないかなというふうにも考えられますし、先ほど申しあげました図書館、新しくできるということであれば、それとセットで自習室、かなりスペースを割いて、そういった機会をつくってあげるということもできるのではないかなというふうに思います。

本日頂いた資料から、私の私見ということでお伝えさせていただきます。

以上です。

○染矢議長 ありがとうございます。

今の校長先生方のお話について、また、それ以外についても結構ですので、何かご意見等ございますでしょうか。

すみません、リモートでご参加いただいている方々も、もしご意見ありましたら、どうぞよろしくお願いいたします。

すみません、お願いします。

○ヴィダル副議長 何度も失礼します。

波除の校長先生がおっしゃる、特にいきいき活動の活用法ということで、南市岡小学校の校区に関してのことだけなんですけれども、今現在、南市岡会館を利用して、毎週月曜日と金曜日、あと第3土曜日の時間帯だけなんですけれども、寺子屋みなみいちおかというのを行っています。コロナ禍での発足だったので、指導員のほうが多いんじゃないかという日があったりするんですけれども、徐々に今、少しずつご兄弟関係とか、あとは同じどこかの塾、学研とかされている方で、どうしても宿題に追われている。家でやると、どうしてもテレビ見てしまう、ユーチューブ見てしまうということで、親御さんにほぼ半ば強制的に、寺子屋行ってこいというふうに連れて行かれることが多いんですけど、おっしゃるとおり、いきいきになりますと、パズルゲームであったりとか、ボードゲームの後は、面白おかしく話してお友達がいらっしゃるので、なかなか勉強が進まないということで、親御さんの希望でもありますし、やはり集中して勉強したいけれども、家ではちょっと、いきいきではちょっとというお子さんの、言い方は悪いですけど、志が高い感じのお子さんたちが課題を持ってきて、長い子になると、二、三時間ぐらいしっかり集中して勉強する。

指導員が確実に1人いる状態で、今その3人のうちの1人をさせていただいているんですけど、確かに会館を使うと、どうしても送り迎えが保障はできないので、お母様、お父様、あとは4年生以上のご兄弟とかに来ていただくようにということで、若干制限があるので、そ

れがちょっとハードルになって参加の伸びがちょっと悪いというご意見もいただきまして、改善の余地が非常にあるなと思っていますんですけれども、一指導員の立場としまして、いきいき教室とか、いきいき教室の横の教室ですね。学校内でそれをさせていただいたら、よりお子さんの参加率が上がって、保護者さんの不安の要素も撤廃できるかなというふうに個人的には考えている次第でして、こういう取組が今のところ、どうしても地域のボランティア活動なので、あとお二人がいわゆる引退された、60歳を超えた元教員の方と、あと地域のいきいきをやっていらっしゃった先生なので、今のところ3人で回しているんですけれども、人数が増えると、3人ではきつい。でも人数を増やしてほしいというところで、やっぱりお母様世代とか、子育てはちょっと落ち着きましたという私みたいな世代を引き込みたいのは引き込みたいんですけど、やはり3時間、月に1回、2回でも3時間ぐらい縛られるという、ボランティア活動というところかなり厳しい部分があったりということで、南市岡だけで今もちろんやっていることなので、それを何かお給金を出せであるとか、もっと改善をするというのは、単位ではどうしても難しいので、やはり各校、各地域で、こういう活動でいきいきのお勉強バージョンもあるよということで、指導員と、あとは子どもさんの確保を、ビジネスと言ったら非常に言い方が悪いんですけれども、指導員も安心して、これをずっと無償でやり続けるのかという状態の不安を撤廃、やはりしないといけないと思うので、それで港区で全小学校なり、中学校でできることで、もちろん学力向上にもつながると思いますし、そういうことがあると、地域にも子どもさんを持った家族の流入というのが手助けになるのではないかと思いますので。

話は飛んでしまうんですけど、統廃合もなんですけど、もともとPTAもやっている人間なんですけど、地域としては、やはり統廃合は非常に心苦しいものがある、地域色というのがありますし。ただPTAとしては、単学級になるということは、つまり親が減る。その中で、ただPTA活動はしないといけない。となると、やっぱり母体を増やしたいという一意見ももちろんある上で、ジレンマはあるんですけど、できれば一度減らしてしまった学校というのを戻すのはかなり難しい、不可能に近いというのは思いますので、できればこういうベースアップで、港区に行ったらこういうサービスがあるよ、こういう行政、こういう取組をしているよということで、子どもさんが活発に活動できる、活発に勉強ができる機会というのも、南市岡からというわけじゃないんですけど、こういう小さい動きではあるんですけど、ぜひご意見をいただいて、さらによりよいものにしたいと思っていますので、お知らせを兼ねてですが、またこういうものがあるとご意見いただければ、大変助かります。



以上です。

○染矢議長　ありがとうございます。

ほかにご意見などございませんでしょうか。

○山口区長　何か最後の挨拶があるわけではないので、代わりにというか、今いろいろご意見や、校長先生のお話を受けて、放課後や、土曜日、日曜日などに、例えば地域で食堂をやって、その後、上でそのまま何か勉強を見てあげるよという、田中の地域だったと思うんですけど、様々な取組がされていて、私も小学校の校長をやっていたときに、NPO団体に来てもらい、土曜塾をやっていたことがあります。それは、5、6年生限定で、L e a r n i n g f o r A l l という団体だったのですが、地域の会館を貸していただいて、学生が基本的には、研修を受けた学生が来てくれて教えてくれたのです。結構、何人か、その中で本当に助かったというか、やはり算数が苦手なまま高学年になってしまって、それがかなり元に戻って、丁寧に2対1ぐらいで見てもらって、学校も頑張っているんだけど、あと若い学生の人に教えてもらうのがちょっとうれしかったみたいで来ていたのと、ただ土曜日に始めたときは、何か集合時間にも全く現れないというか、取りあえずピンポンしに行ってと言って、起こしてくるところからやったりとかしていたのですが、この取組、校長の裁量でできる部分、実はいろんな学びサポーターなど、そういうサポーターの予算などあったりして、それをあえて、担任の先生がやられているというケースもあれば、そのサポーターで教員志望の学生とかを集めてきて学習会やっていたり、地域の方を入れたりといろんなケースがありますので、こういう事例をまた地域の方とか共有していけたらと思います。

あとやはり発掘しないといけないと思っているのが、教員不足も本当に深刻で、ほかの自治体の話なのですが、いわゆるペーパーティーチャーといって、免許を持っているけれども、しばらくやっていませんとか、実は教壇に立ったことないという人たちを集めて、しっかり本当に研修して現場に送るみたいなことをやっている自治体もあるので、こういったことは私がまた、もうちょっと教育委員会にいろいろ訴えたりする役目かなというふうには思っています。

今すぐできること、それから、ちょっと気合入れて区全体でやっていくことと、大阪市とか、国とかに言って動かしていくことがあるかなというのは、今お話を聞いていて思いました。

もう1点、小学校の5、6年生に、いわゆる塾代助成が出るようになるのです。半分以上の方が、年収制限がありますけど使える。できるだけ、例えば地域に塾があって、地域の会

館を使ってやってるところが、塾代助成が使えますよという事業者に登録していると、その1万円分が無償になるので、そういった形で選択肢はとにかく増えてきているとは思っています。

私は、今回、そのビジョンを書き換えるときに、「多様な学び」を応援するという、「多様な学び」という言葉にちょっとこだわって入れたんです。それは不登校の問題も大きいです。さっき校長先生、中田先生が言われてみたいに、学校に戻すだけが、集団授業だけが正解なのかというと、もうそれがどうしても合わない子たちにも、私も現場でも出会ってきましたし、そこに学校の先生が一生懸命になり過ぎて、自分に力がないからだと落ち込んだりとか、また家庭のほうも落ち込んだりするのでは違うかなと思っていて、いろんな選択肢、学び方とか、その過ごし方、その中で一歩ずつ力をつけていくというのを保障したいと思っていますので、今みたいな南市岡でこんなことをやっているよとか、ほかでこんなことをやっているよとか、他の区とか、ほかの自治体でやっていることなどもどんどん集めて、港区に持ってきていたいと思っています。

あと、やはり今日、再編の話が出ましたけれども、昨年度もちょうどこの区政会議のときに、筋原区長が案を言って出て行かれたんですけど、小学校も課題あるんですが、中学校の単学級、小規模化がやはり大きな課題としては、いろいろ学校のほうからも、一生懸命子どもたちを見ていて、小さくてアットホームでいい学校なんですけど、やはり宿泊学習、一泊移住というのができない状況にあったり、ほかの隣の学校に行ったら行けたのに、そういう権利がないというのは本当にもったいないことだと思っていますので、何とかしてあげたいという思いはあります。

そういったところでまた議論を進めていきますし、また皆さんの意見もいただきながらと思っていますので、いろいろテーマが広がりましたがけれども、とにかく一人も取りこぼさないというのはすごく大変なことなのです。学校もすごく頑張っている、やはり先生たちの限界というところもあって、そこを地域の方とか、PTAの方とかが見守って、声かけて、やる気を何か認められて、何かうれしいなという気持ちがまたやる気につながると思っていますので、そういうまちにしていけたらと思っています。よろしくお願いします。

○染矢議長　ありがとうございました。

それでは、時間も参ってきましたので、これで本日の議事を終了したいと思います。

委員の皆様のご協力のおかげでスムーズな進行ができましたことにお礼を申し上げます。ありがとうございます。

これからも区政会議の運営にご協力をお願いいたします。ありがとうございました。

それでは、事務局にお返しいたします。

○村上協働まちづくり推進課長代理 染谷議長、ありがとうございました。

委員の皆様には、ご案内申し上げておりますように、3月10日金曜日、午後7時より、港区区政会議全体会議をこの場所で開催いたしますので、ご参加いただきますようよろしくお願いいたします。

本日の資料は全体会議でも使用いたしますので、お手数をおかけしますが、ご持参いただきますようお願いいたします。

なお、関係者の方々は、次回の全体会議には出席されなくて結構でございます。

それでは、これで港区区政会議こども青少年部会を終了させていただきます。本日はありがとうございました。